

平成28年10月1日

## 秋の歴史散歩レポート 浅見 実

★ 10月1日（土）恒例の秋の歴史散歩の会を開催した。今回の訪問先は、大船駅の西側にある鎌倉市玉縄地区であった。案内人は、大手旅行代理店でのツアーコンとしての経歴が豊富であり、当然ながら歴史にも極めて詳しい持田信廣氏。参加者は見学者1名を含め、15名。これまでも当会では、この地を、横山事務局長等の案内で数回訪れているが、マイナーな史跡が多くてなじみはないかもしれないけれども、いつも新しい発見がいくつかある。当日の天気予報は、雨ということであったが、幸いにして、曇りで涼しい一日であった。皆、傘を持ってきたようだが不要であった。邪魔であった。

★ 玉縄地区のメインは、北条早雲により築かれた玉縄城址である。でも、この辺りは見た目には大したことはないが、とにかくだらだらとした長い坂が多い。鎌倉市と藤沢市との間には大きな丘陵地帯が存在している。『新編相模国風土記稿』によると、この地は『頗る嶮岨』だとある。その頂点に城があったのである。歴史散歩の会は、場所を選ばないと足の弱い人にとっては、かなり苦痛であるかもしれないと、そして体力がなにより必要であると、今回は実感した。今後は当会でも訪問先を、おだやかな場所を選ぶことも、あるいは考慮すべきであろう。若者が六本木、銀座等をイヤホンでスマホの音楽を聴きながら、そしてクレープを食べながら歩くのとはわけが違う。そこを失礼ながら、多分一番のご高齢であろう持田氏が皆の先頭に立ってさっさとメンバーを引き連れていくのである。行列の前と後ろとではかなり間隔が空いていく。結局は、予定をしていなかったので城にはたどり着かなかったが、北条氏関連の社寺群を訪れた。城址は現在はスペインのマドリッドに本部があるカトリック系の女子中・高等学校の清泉女学院となっている。

★ この城の二代城主は北条綱成であった。『河越城の戦い』で有名になり、背中に『八幡大菩薩』と書いた黄色い旗をさして、上杉勢を大敗させたという。結果、16世紀の半ば頃から、古河公方と上杉氏の勢力は衰退の一途をたどり、関東における北条氏の覇権が確立したとか。重要な城であろう。

昼時となり、散歩途中にある大きなショッピングセンターのレストランに立ち寄ったが、土曜日でもあり、何処も満員で、弁当を持参していないものは、30分以上も待たされて、やっと食事でありつけた。大幅に遅れて午後の行程に支障がでた。

★ 歴史のサークルには、2次会がつきものである。今回も1万6千歩くらい歩いた後に、2名のやむを得ない事情の人を除いて大船の繁華街の焼き鳥屋に入った。一方、散歩には来なかったが2次会には参加した人が今回もいた。会合では、打ち解けた気分で各人が得意な分野を大きな声で勝手に喋り、賑やかなひと時を過ごした。